



## 記念史発刊を祝う

元厚生大臣 森 下 元 晴

県南海部の海、山には豊かな自然と、人情の美しさが、今も残されています。

大竹組が創業した80年前の海部は、文化の恩恵に、とり残された辺境の地でした。当時の海部では、荒海を浦から浦へと通る小さな汽船が印象的でした。

大竹組創業の目的は、海部に文化、文明の光が到来する為にと、牟岐町の大竹常蔵氏をはじめとする同志の人々が結集して、人間生活の基盤としての港湾、漁港、土地整備等の現代風に申せば、社会資本充実の為の企業の発足でありました。

私はこの年、即ち大正11年に海部の地に生を受け、創業80年と同じく80歳で、深い御縁を大竹組に感じます。

後年私が非才、不利をかえりみず衆議院議員の選挙に出馬した際に「郷里海部より男の勝負だ。頑張れ」と第一番に賛成し、応援を賜ったのが当時株式会社大竹組として発展中の初代社長戎谷利平氏で会社をはじめ親類知人に呼びかけて戴いての心強い応援を賜り、選挙に不利な海部の地盤でありましたが、おかげで初出馬、初当選の栄に浴しました。

其後の選挙でも8回当選、20年余の政界活動に専念出来、地元の為には微力ながら御恩返しも出来ましたが、大竹組2代社長の戎谷次郎氏をはじめ関係の方々の強力な応援のおかげであります。

大竹組は、和をモットーとするファミリー的な伝統と着実に時流に乗っての発展の今日であります。幸い、21世紀は国際化の混沌の新時代であります。幸い、大竹組3代目社長戎谷一平氏は、すでにISOのシステムを取得する等時代を先取りする体制をつくり着々実行されており、心強い次第です。

私は、社長を中心として益々発展される様心より祈念して、記念史発刊のお祝いの辞と致します。